

垣生地区タウンミーティング

平成24年6月12日（火曜）

【市長】 皆さんこんばんは。今日は平日の夜間でございますのに、お仕事疲れのある方もいらっしゃると思いますけども、このようにたくさんの方にお集まりをいただきましてありがとうございます。またこのタウンミーティングの開催に当たりましては垣生公民館の秀野会長さんをはじめ地区の役員の皆様方にご協力をいただきました。本当にありがとうございます。さてこのタウンミーティングですけれども私が就任させていただいてから始めさせていただきました。それはなぜかといいますと、市役所で皆さんが来られるのを待ってるので果たしていいのだろうかと思いました。松山市はこのように公民館の本館が置かれている地区、41地区に分かれますけれども、私たちが市役所で待ってるんじゃなくて私たちのほうから地区に出向いて行って、その地区の魅力について教えていただく。そして課題や問題点もいろいろとあると思いますので、その課題や問題点を私たちから聞きに行こうと思った次第でございます。松山市41地区の中の垣生に来たのが27地区目ということになります。半分過ぎてやってまいりました。お待たせいたしましたというところでございます。で、まず魅力と申し上げました。なぜ魅力をまず教えていただくのかと言いますと、松山市41地区ありますけれども、行政が主体になってそれぞれの地区のまちづくりをやってしまったならば、金太郎あめのような地区が41できてしまう。その集合体である松山市はあまりおもしろいまちとは言えないと思います。その地区の魅力について一番よく知っているのは誰でしょうか。行政でしょうか、それとも皆さんでしょうか。それは絶対その地区に住んでいる皆さんが一番その地区の魅力をおわかりだと思います。その魅力をしっかりと皆さんで認識していただいて、その魅力を活かしたまちづくりをしていただくことが大事だと思います。そうするとその41の集合体である松山市はより輝くということが言えると思います。ですので、まず魅力について教えていただきます。そして課題点、問題点についてもどンドンと手を挙げて、最初はなかなか手が挙がりにくいものですがけれども90分間、8時半までですが、最後のほうになるとどンドン手が挙がるようになりますので、最初のほうから手を挙げていただくとありがたいです。松山市の仕事は大変多岐にわたります

す。ここでお答えをできるものはここでお答えをいたしますが、国と絡むもの、県と絡むもの、また財政的な問題があるものについてはここですぐにお答えはできないこともございます。でもこの松山市版のタウンミーティングは「やりっぱなしにはしない、聞きっぱなしにはしない」というのが特徴です。例えば、ここである意味聞いてるふりをするとそれは楽だと思います、でもそれはいたしません。ここでお答えできることはここでお答えをする、ここでお答えできない事柄も1カ月くらいお時間をいただく形になります。それは国に問い合わせる、県に問い合わせる、で答えが返ってくる、松山市としての方針を決定して地区にお返しするということになりますんで1カ月くらいちょうだいしますけれども、「やりっぱなしにはしない、聞きっぱなしにはしない」というのをモットーにしております。それではこのタウンミーティング、私と担当課長、担当部長が来ておましてそれぞれの専門のことについてはお答えをさせていただくんですけども、それぞれ担当自己紹介いたしますのでよろしくお願いいたします。

【市民部長】 皆さんこんばんは、市民部長の三好でございます。このタウンミーティングを統括いたしております。普段の業務といたしましては、住民サービス、窓口サービス、市民課、消費生活センター、それから出先では22支所7出張所、パスポートセンター、こういった幅広い窓口サービスを行っております。そのほかには住民主体のまちづくり、NPO支援、男女共同参画、人権啓発、こういった幅広い仕事をいたしております。今晚はよろしくお願いいたします。

【社会福祉担当部長】 皆様こんばんは、保健福祉全般を担当いたしております社会福祉担当部長の大濱でございます。本日はよろしくお願いいたします。

【都市政策課長】 こんばんは、都市政策課の白石と申します。都市整備部では道路、公園の整備また維持管理等をしております。よろしくお願いいたします。

【環境政策課長】 皆さんこんばんは、環境政策課長の大野と申します。環境部ではごみ問題とか地球温暖化対策、それから大気とか川とかの監視を行っております。どうか本日はよろしくお願いいたします。

【生涯学習政策課長】 皆さんこんばんは、生涯学習政策課長の前田と申します。教育委員会の業務全般を統括しております。本日はよろしくお願いいたします。

【消防局企画官】 皆さんこんばんは、消防局企画官の岡本でございます。消火、救急救助そして自主防災組織、女性防火クラブ、地域防災も担当しております。

本日はよろしくお願いいいたします。

【市長】 という6名でございます。最後の岡本企画官が、消防で以前はレスキュー隊員をして、まさに命がけで活動していた、それぞれが専門でございますのでよろしくお願いいいたします。先ほど申し上げましたけれども、90分間という時間ですので、肩ひじ張っているとさすがに疲れてしまいますので、ぎっくばらんな雰囲気であればと思います。どうぞよろしくお願いいいたします。

【男性】 垣生地区の魅力ということで、私から若干しゃべらさしていただいたらと思いますが、なにぶん口下手でございますので、私どもの先輩、公民館で垣生音頭というのが昭和52年につくっておりました、この中に結構垣生の魅力について歌われておることがわかりましたので、皆さんにお聞きいただいて、その補足をする形で進めさしていただいたらと思いますので、まずはちょっとかけてみますので。お聞きください。

(垣生音頭)

はい、ありがとうございました。1番に歌われておりますのが伊予絁ということで歌の中では以前に言われておりました今出絁と最初言われておりました、その後伊予絁ということで日本の3大絁に数えられておりますけれども、時期は定かではございませんが日本一の生産量を誇った時期もございます。ただ今は垣生で生産されてございませんで、かすり会館のほうで若干生産をさせていただいております。そしてこれの継承といたしまして中矢恵子さんが伝統工芸士の資格を持っておられまして、この鍵谷カナさんという83歳で、創始者なんですけれども、亡くなられたその命日5月28日に毎年鍵谷祭を公民館主催でやっておりますけれども、このときにちょうどこの場所で機織り機を持って上がっていただいて実演をしております。この方は小学校へ行ってクラブ活動の中でボランティアで機織りの実践なんかも、子どもたちに指導しておるといところでございます。そして今日、市長さんも着ていただいております。市長さんは内形バージョンで、私外出しバージョンですが、絁を、この模様も中矢恵子さんデザインによるものと伺っております。これは垣生の伝統的な伊予絁ということで、後々までも発祥の地ですので、鍵谷祭等を通じて地元の文化として守り伝えていきたいと考えております。それから3番にちょっとでておりました、4番ですかね、俳句が結構

盛んで、村上霽月さんとか石田波郷さんという有名な俳人を生んでおりまして、子どもたち、小学生・中学生も俳句をつくるのは結構盛んで、鍵谷祭のときには中学校の生徒が詠んだ優秀な句を表彰したり、あるいは小学校には校内に俳句の小径もつくって俳句の推進に努めておるところでございます。もう一つ地域の文化といたしまして、垣生西国三十三小霊場がございまして、これは小さい観音堂が三十三カ所ございまして、小さいんですけれどもすべて屋根がついておりまして、中に観音さんが祭ってあって地元の人が大切に保存しておるんですけれども、この三十三カ所の大部分が民家の敷地で、一部寺院の敷地についておりますが、ほとんどは一個人の民家の敷地の一角に設置されておるということで、地元の方としては家の家内安全、そして地域安全ということで大切に保存をしてきたと。公民館といたしましても、毎年1月の上旬にこの三十三霊場巡りということで企画して、一周しますと2時間弱かかるんですけれども、周っていただいて後、七草粥を食べて帰っていただくという事業も行っておりまして、これも地元の方々ともども、保存に努めていきたいと考えております。最後に食文化として、今出のたこめしを述べさせていただきます。これは今出でおいしいタコがとれる、マダコという種類らしいんですけれども、以前はタコつぼを置いておきますと、上げるつぼに全部タコが入っておったという状況の頃もあったようですが、今はそこまではとれないんですけれども、結構おいしいタコがとれるということで、地元のほうでたこめしをつくっているところもございまして、先ほど申し上げました鍵谷祭のときに公民館でたこめしをつくって販売をしておるということで結構人気がございまして、すぐに売り切れてしまうくらい人気がございまして。これも地元の名産、食文化ということで大切に保存をしていきたいと考えております。ほかにもいろいろ申し上げたいことがあるんですけれども、一点だけ最後に、先週、南海放送のもぎたての収録で垣生地区ございまして、放映が今度の日曜日17日に行われるということなので、ぜひ皆さん放映を楽しんで見ていただけたらと思います。以上でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

【市長】 はい、では私から。いろいろと魅力を言っていただけました。今日が27地区目のタウンミーティングと申し上げたんですけれども、中でも垣生は五七五で言うならば、「垣生地区は文化の香りのするところ」ということが言えそうだと思います。伊予絋の歴史そして俳句のこと、西国三十三カ所、もう本当文化

の香りがするところだと思ってます。で、これ本当に伊予絣の組合と銀天街の紳士服店が一緒になってつくってくれたものなんですけども、本当にいい物を、行政が主体じゃなくて民間のほうで動いていただけるとすごい嬉しいんですよ。で、粹に感じまして、このクールビズの期間中はずっと着さしてもらおうと思っております。西国三十三カ所なんかいうたら、松山市にとっても今からできるだけ医療費を適正化しよう、予防医療に努めていこうと思ってるんで、できるだけ歩いていただきたいと思っているんですよ。生活習慣病にならないためにもそのウォーキングコースが元々あるわけですからすごくありがたいんです。で、地域の宝だと思って、こういうのをバックアップする事業が始まりましたんで、地域の宝みがきサポート事業について、三好部長のほうからお願いします。

【市民部長】 市民部長です。新しく始まりました、地域の宝みがきサポート事業ですけど、各地域にいろんな、本当に有名なものもありますし、本当は有名なんだけどみんな名前も知らない、そういう事業があるんですけども、こういう遺跡とか史跡とかを継承しようということで、地元の方が中心になってまちづくり協議会とか公民館が継承する事業に対して、年間30万円の予算で看板とか、史跡の説明板とか、設置する事業を始めております。これで住民の方でその地域の中でどういう史跡をみんなに知ってもらいたいかを議論をしていただきまして、市に相談していただきましたら、その原資となる費用を出していただくという事業でございます。

【市長】 またお祭りの補助なんかも出てるんですかね。

【市民部長】 そうですね、こういう伊予絣とか鍵谷祭とかにつきましては今、活動補助金出さしていただいております。額も少ないんで少し増やしてほしいというお気持ちはあろうと思うんですけども、このあたりについては、まちづくりが始まりますといろんな形でサポートできますので、また相談していただきたいと思います。

【市長】 はい、最後にこの伊予絣なんですけども、以前は子規記念博物館の女性職員の制服で使われてたんですけど、今使われなくなってまして、できればもう一回伊予絣でやりたいと思って、検討するように指示をしているところです。魅力についていろいろとお話していただきありがとうございました。部長課長たちは手元に数字の入った資料がありますので座った状態でしゃべると思うんです

けど、私はできたら皆さんと顔を合わせてしゃべりたいので立ってしゃべらせていただきます。

【男性】 ちょっと希望というかありますので、発言させていただきます。地域のコミュニティ、交流の輪で一番大事なところは公民館だと思ってます。市の方来られてるので公民館見ていただいたらわかりますけれども、相当古い公民館でトイレは男女共通になってます。それから3階建てだけれどもエレベーターありません。年寄りの方、階段上がるんがしんどい人もいらっしやると思います。それから駐車場もありません。で、希望なんですけども、要するに公民館を建て替えてほしいということです。地域の住民で今一番してほしいことは多分そのことじゃないかと思うんですよ。それでこの建て替えについて地元でクリアしないとイケないのはどういうことかを教えてほしいんですよ。どこまで、例えば建て替えてくれ言うて、市が全部やってくれるのか、途中までは地元でこういうことをやってくれとか、その辺をお伺いしたいんです。で、候補地がないわけではないんです。東集会所ってあるんですけど、その隣に織物工場がありまして、同和対策か何かで建てたんですが、今は人権啓発課の管理になってると思いますが、そこが今荒れ地になってます。そこを候補地としていいと思います。公民館だけじゃなしに高齢者の福祉の拠点、あるいは垣生地区は防災について非常に意識が高い地区なんで、防災の拠点と一緒にして公民館を建設したらどうかなと。ちょっと横道にそれでしたけども、要するに公民館を建て替えてほしい、それについて地元がどこまでやらんといかんのかを聞かせてほしいんですよ。よろしく願います。

【市長】 これまでタウンミーティングで発言されたことに対して拍手が起こったのは多分初めてだと思います。それだけ皆さんの思いがおありになると受け止めさせていただきました。なぜこちらの公民館がなかなか建て替わらないのかといいますと、昭和56年が一つの基準になります。昭和56年以前の建物は耐震基準を満たしていないので、松山市内にもいろんな公民館があるんですけども、昭和56年以前の耐震基準を満たしていないものを、できるだけ耐震化を早めてやっております。垣生は、昭和58年の建築で新しい耐震基準で建てられているので、そのあたりは大丈夫なんです。ほかの地区でも3階にこのような和室があるところもありまして、エレベーターがないところもあって、おじいちゃん、お

ばあちゃんが一生懸命階段を上がっているところを見ましたのでなんかこう申し訳ないかと、31年前の建物になりますから、やっぱりこれだけの少子高齢化が想定できてなかったのかなという建物がいくつかございます。で、織物工場のこととも把握をしております。あそこに公民館を建築するようになると、市民部長ですかね。

【市民部長】 まず簡単に、タオル工場の跡地について押さえさせていただきます。同和対策事業で昭和45年からタオル類をつくる縫製工場として始まりました。ところが不況で、だんだん収益ができなくなって、昭和63年に休止しております。以前は休止すると、補助金をもらってますので、それ以外に使いなかつたんですけど、近年は別の用途に使ってもいい、例えば福祉施設とか教育施設という一定の基準は出ました。ただ補助金も返さなければいけないんですけど、もし別の用途に転用する場合についても、やはり住民の合意が必要です。中には福祉施設につくってくれんですかという意見が過去にも出された経緯がありますし、公民館にという経緯がございますけども、ただこういう施設をつくる時にやっぱり地元の住民の合意形成が大事だと思います。行政が何かやるっていったとき、それは違うっていうことになりましたら結局意見がまとまらない。例えば今現在松山市において地域におけるまちづくりってやっとなんですけど、まちづくり協議会が重要な問題について合意を形成していこう、例えば隣の余土地区だったら余土中の移転の問題についてとにかく住民で合意してしまおう、行政に協議しましょうと。堀江であつたらフェリーがなくなって非常に困っておる、あそこどうするんか住民が今意見を交わしております。そういう形で住民が合意形成して、行政にボールを投げただけだと、また新たな展開も生まれてくるかもわかりません。このあたりはまた協議させていただきたいと思っております。

【市長】 住民の方で合意形成していただいて、あそこをどうしたいのかという要望をいただくということですかね。補助金というのは国ですか、県ですか。

【市民部長】 国の補助金です。国の同和対策の雇用対策としていただいておりますので、若干緩くはなっておりますけど国の縛りがございますので、それを変えんとするとやはり住民の合意形成というのが重要となってきます。

【男性】 住民の合意形成ということは住民の何パーセントの賛成がいる。

【市民部長】 これは、もちろん100パーセントは無理なんで、ただ基本的に

こういう形の物もどうでしょうかと投げただけですと、行政も一つの窓口で話の場づくりができると思います。物事はそこから始まると考えております。

【男性】 住民の合意形成ができてませんでしょというときに、住民の何パーセントがいるんですかと聞いておるんです。

【市民部長】 難しいのは簡単に多数決でやるのか、絶対多数決をやるのかといういろいろあるんですけど、このあたりは地域の実態も考えて、また協議させていただきますので、今すぐに答えはできませんけど、改めて話させていただきたいと思います。

【市長】 今の経緯を聞くと、元々タオル工場としてつくった、国の補助金が出されてたので目的外に使用するととなると、国は補助金返せって話になるのでなかなか動いてこなかった経緯がある。でもそれがだいぶ自由度ができてきたので、皆さんで合意形成していただいて、という形になります。よろしく願いいたします。

【男性】 道路関係で二件ほど要望があります。一件はその陸橋から小学校にくる道路の歩道ですけど、通学路にしては少し惨めじゃないかなと思います。担当の方は一回歩いてみてもらいたいです。もう一件は陸橋から吉田に向かって歩く道路で、洗地川の橋が架かっています。その橋のところだけが狭くって歩いて渡るのにも非常に危険を感じるし、また自転車でもちょっと怖くて渡れない状態です。担当の方で視察していただいたらありがたいと思います。以上です。

【男性】 関連して、ここ最近全国で相次いで児童、生徒が通学時に交通事故に巻き込まれて悲惨な事故が多発しています。これを受けて早速、野志市長は各学校の近辺の通学路の問題について調査を指示されました。大変結構だと思います。それとともに交通安全マップ作成、モデル校を1校つくってそれを生徒も含めて調査をしましょうということも、今回補正予算に420万円計上されてます。これも大変結構だと思います。調査なりモデル校を指示してマップをつくるということは非常に結構なことですが、問題はこれからなんです。そういう調査をされた上で危険箇所があったり、今のようなお話の箇所が出てくると思うんですよ、たくさん。垣生地区においても既にガードレールをつくってほしいとか、陸橋をつくってほしいとかいう声が、父兄なり地域の皆さんから多々出ております。けれども、いずれにしても最後はお金のかかる問題です。だから私がお願いしたい

のは、先ほどの問題点も、道路のことも含めて、学校近辺の調査をされた以降、危険箇所なり問題点が出てきた点について、市としては今後そういう問題箇所についてどのように対応されるのか。すぐガードレールをつくるのか、つくるにしてもお金が要ります。調査は非常に結構なことです、その後、どのような対応をされていくかが一番ポイントだと思いますので、その点も含めてよろしくお願ひします。

【市長】 はい、わかりました。先ほどの公民館のことで補足させてください。先ほどのトイレが男女共通でなかなか利用しにくい、エレベーターがない、駐車場がないという件については、この会でいただきましたので、受け止めさせていただきます。そして通学路についてですけれども、今、緊急点検中で6月15日中までにまとめろということで、今緊急点検をしております。で、放置をするつもりはありません。これは、後でどうしても財政の話をしなないといけないかと思うんですけども、限られた財政、予算ではあるんですけども、できる限りやっいていこうと思っております。よく、ガードレールを早くつくってくれと言われるんですけども、一方では、沿道に家がある人からすると、家に入りがすごいしくくなるというところもあるんですね。暗渠にしてくれと、水路にふたしてくれたらええんじゃがという話はあるんですけども、農業の利水の関係から、ふたをされたら掃除もしにくいけん困るという話もあるんです。いろんな方の立場、立場があるのでなかなか進まないところもあるとは感じておりますが、放置をするつもりはありません。と言いますのが、浮穴小学校に行ったときに、浮穴の子どもたちから通学路がちょっと危ないところがあると言われて、暗渠化を希望されましたんで、これ調整できましたんで、浮穴ではできるようにしました。このように、限られた財政ではあるんですけども、子どもが危険なことに遭うことがないよう、できる限りやっいていきたいと思っております。マップも、今回モデル地区を決めて、1校で安全マップを、子ども目線であってというのがキーワードですけど、だいたい親と子どもにあわせて家庭には一枚ってやると、だいたい親が主導して子どもの目線での意見が反映されなくなる。ですので、これ金沢に視察に行ったときに教えてもらったんですけど、子どもにも必ず地図を一枚渡して子どもの目で見て危ないところないですかという地図をつくる。一つのモデルケースができたならノウハウができますから、41地区に広めていきやすくなりますのでこ

れもやろうと思ってます。私から長くなりましたけれど補足を。

【生涯学習政策課長】 教育委員会ですが、先ほど市長が申しましたように現在各学校に対して通学路の中で危険な箇所について、どういうところがあるかという調査をしております。その調査が上がってまいりましたら、市役所内部で協議し、役所の中で対処するもの、警察へお願いするもの、また、国や県にお願いするものという色分け等しながら、できる部分についてなるべく早く対処することで、現在準備を進めておりますのでご理解いただけたらと思います。

【市長】 日ごろのこと、例えば道路にちょっと穴が開いて危ないとか、そういう身近な声はどうぞ寄せていただきたいと思います。

【都市政策課長】 今、市長が説明しましたように、松山市道が約1,700キロメートルございます。それを3班で道路パトロールしております。例えば、穴ぼこがあるとか危険箇所があれば、迅速に対応しております。土日限らず24時間体制で行っておりますので、どのようなことでも結構ですのご連絡していただけたら、対応はさせていただきますと思います。

【男性】 私も通学路のことで言いたいんですが、これは年に3べんぐらいあるのかな、水がたまって子どもがざぶざぶと渡ってきよんですわ。ほいで前にこれはいかんいうて、どうもないとこを連れてまわったりしたんですけど、2年前に市に見てもろとんです。考えてみるということですが、水がはけんでそこに水がたまるんです。もう一つは川から逆流するのもあるんで、川が水が高なるとそこようはかんで水がたまる。ちょっと深くなると30センチくらいはたまるようになっとなんで、そこをもういっぺん検討してもらいたいと思うし、いっぺん市には見てもろとると思うんです。よろしくお願いします。

【市長】 はい、わかりました。ありがとうございます。この件につきましては地元の議員からも伺っておりまして、把握をしております。今日、今の時間まで子どものサポートのことで多数のお声をいただいて、本当にありがたく思ってます。少子高齢化の世の中で未来を担う子どもたちですから、その子どもたちのことを地区の皆さんが大事に考えていただいて、本当にありがたく思います。そうですね原因のほうとかも。

【市民部長】 私から、ご心配とご迷惑をおかけして申し訳ありません。ご質問の件については三反地川の関係で、場所的には、ちょうどパルティフジのところ

とかちょうどあそこ道からパルティフジに行くところと、住吉神社のところじゃないかと思うんです。これは原因といたしまして、近年の宅地化によって水田が保水能力がなくなってもう水が受け入れきれなくなっているという問題と、段差がありまして、市のほうでも、護岸のかさ上げとか随分いろいろやってきたんですけども、ただ最後の段差があるところについては若干残っているところがございます。本当にご心配かけて申し訳ございません。担当課河川水路課ですけど、何とか排水がうまくいかないかと計画の見直しをやっている最中です、すぐのできる問題じゃないんで、お金もかかりますし、若干そのあたり計画の見直しでかかりますんで、できるだけ早いうちに改善できるように一生懸命努力してまいりますんで、河川水路課に改めてその意見伝えておきますのでご理解いただいたらと思います。

【男性】 垣生小学校PTAの役員をしております。お聞きしたいのは通学関係なんですけど、登下校時、横断歩道に横断旗がないところがあるんですけど、その設置は可能でしょうか。それとあわせて、垣生地区の子どもが年々増えております。この地区に児童館の設立はできるんでしょうか、すいませんけどよろしくお願いします。

【市長】 交通安全旗については交通安全協会です、後ほどお願いします。児童館については、垣生小学校は児童数が増えてます。5年前に比べると111名増えてます。これは実態に即したものの、施設も見合った形にしていきたいと思っています。児童館については、ちょっと難しいという返事になってしまいます。というのが、今、児童館、児童センターは7カ所あるんですけど、今、北条地区に児童館がないんです。北条の方は一番近い児童館が久枝になってしまうんです。北条の方が久枝が一番近いという状況ですので、確か垣生は味生が児童館近かったと思いますので、松山市をエリアでとらえて児童館をつくってその周辺を担当するという形になりますので、なかなか難しいというのが現状です。ご理解ください。交通安全旗のことについてお願いします。

【都市政策課長】 横断旗は各警察署の交通安全協会が設置及び管理をしておりますので、該当場所を教えてくださいましたら、市から交通安全協会に依頼したいと思います。ただ、安全協会も、在庫等の限りもございますので、要望に沿えるか沿えないかは今は申しかねます。

【市長】 場所については、どこがないというのを言っていたらと思います。道路の危険箇所についても白石課長が担当でありますので、この後言っていたらと思います。

【男性】 おかげさまで松山市でも近年、優秀な地区防災会に育てていただきまして大変ありがとうございます。私どもが24年度取り組んでおりますのは、垣生地区は高台がない、海拔5メートルが最高地ということで津波災害に対して逃げるに逃げれない、逃げる場所がないという致命的な弱点を抱えております。この事実についても海拔表示ということで、既に始めておりますし、あわせてどうすりゃいいんかいのというのに対しては、津波避難ビルということでやっております。ただしこれには限界がございます。もう既に対象となるビルはほぼございさつがすんで、今日現在、10棟確保しております。ただしこれだけでは垣生11,000人の避難先としては心細うございます。そこで自主防災会としてはやれるべき点はほぼつくしているつもりです。ここから先はどうしても行政にもお願いすべき点、それしか方法がないということで、津波避難タワー的な背の高い建物をおつくりいただきたい。日ごろの活用としては、去年、三津では地域交流センターということで、支所や公民館や児童館やいろんなものが入っておる建物もできているようでございます。私が今望んでいる形は、今までないようなのっぽなもの、どうしても高くなくてはならない、というものを日常の使い方とあわせてお考えいただきたい。といいますのが、地理的条件で松山市でも私の調べた中で1、2位を争うほど、津波に対しては避難が難しい地域だということは間違いございません。そこで、それをお願いするんですけど、それと地域の皆さんの津波に対する関心が高い、あるいは地域住民のいろんな形で各種団体との結びつきが結構強い地域だと。その証拠が去年、10月31日に行われた地区の総合避難訓練、これは各地区で行っておりますけれども、住民11,000人に対して、1,200人というとても数字をたたきだしておる。ということは住民の関心が高い地域である。それと、公民館長に実行委員長という形で各種団体で協力してこの避難訓練をやらせていただいた。決して自主防災会だけの音頭取りではなかった成果が1,200名という、ちょっとよその地区と比べると考えられない数字をはじき出した原因だと思っております。そういう地理的条件、それと住民の関心が高いということで、モデルとして、もちろん松山市では事例がない

はずです、そういったものをこしらえていくべき、全国に誇れる、きらっと誇れるものをこしらえていただきたいという私からの意見でございます。

【市長】 今イメージされてるのは何階建てという。

【男性】 最低5階。1階、2階はもちろん立体駐車場になってもよろしいかな。

【市長】 感謝を申し上げたいのは、NHKのニュースだったと思うんですけど、まず1回目は垣生にある大きいスーパーに食料の確保、お願いに行かれてる映像が映っているところを見て、別の機会に、避難ビルのお願いに行ってるところが映ってたので、本当に感謝申し上げたい、日ごろから動いてくださって本当にありがたいと思います。このことですけど、以前、私、空港のそばの公園をネットを高くして、周りの住民の方にも迷惑かけないで子どもたちが硬式野球できる場所を増やせればと思ったことがあるんですけど、ネットの高さを上げようと思ったら、「空港の関係があるんで、あまり高いものが建てられないんです。」と言われたことがあるんです。これまた調べさせていただこうと思います。避難ビル等のことについて、岡本企画官お願いします。

【消防局企画官】 消防局岡本です。日ごろからモデル的な活動をしていただきまして本当にありがとうございます。ただいまの避難ビル、避難タワーですが、現在内閣府が今年の12月31日に震度分布と津波高の想定を、震度6弱から震度6強に変更いたしました。そして津波高も2メートル40から3メートル50に変更いたしまして、そういったところから、東北で起こった日本海の津波をイメージされとるかと思いますが、瀬戸内海には、この想定の中で到達時間が2時間から3時間で津波の第1波が到着する。で、最大波は大体3時間から12時間の間というアバウトな、広い時間設定しか出されてない。ただ、津波が到着するまでに2時間はあるだろうというところで、即、避難しなければならない場合はビルとか直近の高台に避難しなくてはならないんですが、現在そういった想定の中で、避難する時間が2時間あれば健常者は遠方に避難できるだろうというところで、正式にこの想定が夏ごろに人的想定また物的被害想定、そして津波高の詳細、これ10メートルメッシュ、10メートル間隔で津波高が想定されます。そして、3.5メートルの津波が来た場合の浸水域も想定が国から出されます。それをもって松山市の地域防災計画、また県の地域防災計画も見直してまいります

ので、そういったところで今何もしないというわけじゃないんですが、そこらあたりの数字をもって、なるべく正確な避難ができる垣生地区の計画を策定してまいりたいと思いますので、今すぐ避難タワーを建設するというような決定的な発言は、できかねるところでございます。

【男性】 いろんなこと行政は考えておられる。いろんな施策を考えて、しようとするのはわかりますが、今津波が来たときに私らどこに逃げたらいいんかシミュレーションしてますか、教えていただきたいんですよ。垣生の住民1万1千人が、どういう形で、2時間あろうが、どんどん余戸のほうに2キロ、3キロ、4キロも、余戸の人もおるわけですね。垣生山はあっても地域の人々の避難場所にもなろうと、こっから海沿いにどんどん行くようなことも考えて、とりあえず今震災が起きたときに我々はどういうふうに避難したらいいか、それだけ教えていただけたらと思います、お願いします。

【消防局企画官】 今の段階で、そこに避難しなければならないというのは、やはり行政が知らせるのは高いところに避難してくださいとしか言いようがありません。ですから高いところが近くになれば、遠いところの高いところに避難していただくと。

【男性】 誠に申し訳ございませんけれども、そんなんでいいんですか。生命と財産を第一義で守らないかんのが行政。いろんな分野があると思うんですよ、文化的な行事もせないかんというのも、心の豊かにしようということもあれば、先ほどの通学路の整備というのももちろんあろうし、いろんな分野で優先順位というのもあろうと思うんですけども、まず第一義に考えとるのは何ですか、行政で。

【消防局企画官】 市民の安全ですね。

【男性】 ですね。となれば第一義に、実際に起きたときにどういう形がベターなのか、教えていただきたいんです。遠いところ、高いところに逃げてって言っても、そら、私でもわかりますけど。

【消防局企画官】 災害の状況を、情報を正確につかんで、市民の方にその情報を正確に伝える。その伝え方、どういった災害が発生しているからこういう行動をとってくださいというような情報を伝えることがまず第一番だろうと思います。

【市長】 岡本さん、今想定されているのは津波の高さはいくらですか。

【消防局企画官】 今の段階では2メートル40です。

【男性】 新聞にも3.5メートルってなってるでしょう。

【消防局企画官】 3.5メートルを想定した計画を今作成しております。

【男性】 それじゃ答えにならんでしょう。

【消防局企画官】 国の基準、指針に基づいて愛媛県の想定が出てきます。その愛媛県全体の想定を見て、松山市の計画も策定を同期に進めてまいりたいと。

【男性】 あのですね、今の現状で3.5メートルの津波が来たときに、今の現状やったら垣生の間が半分死ぬと、それやったらどういう対応をしようか、避難タワーを設けるとか、そら時間かかるかもしれませんが、公民館を新たに建て替えというお話もありました。そういうお話を具体的にしてもらえんですかね、現実的に。今もうここ逃げる場所ないんで、みんなどなにしよう、どなにしようというのが現実です。どんどん津波がどれだけ到着したから余戸までにはどれくらいかかるんか、余戸行っても5メートル、6メートルの高さしかないんですよ、その程度のもんですよね。そういう形のもんでね、今ベターな状況を私らに教えてほしいんです。どのようにしたら一番ええんか、今の現状でかまんですから。今の状況で、私らが垣生としてどこに逃げたらええんか、どういう避難行動をとったらええんか。高いところ探して、それも限りあります、それ以外にどういう方法があるんかと。

【市長】 これについては私のほうで引き取らせてください。そしてこれには1カ月を待たず、できるだけ早く回答をまとめて、特に先にお返しをさせていただきます。市としての公式な見解をできるだけ早くお答えをさせていただきますので、よろしく願いいたします。ちょっといったん今回は引き取らせてください。

【男性】 今、言われたんですけども、一応避難ということで私ちょっと考えていることがあるんですけど、今、松山外環状ができております。今現在大体60パーセントぐらいの進捗率と聞いておりますけど、これから5年先くらいまでにできるわけですかね。

【市長】 29年ですから5年くらい先ですね。

【男性】 これに対してね、高さが大体10メートルちょっとぐらいなと思うんです、この自動車道は。そこに、一つ提案ですけども、いつ来るか、来ないのか、津波が来るかわからんけども、できるときに、市長さんなり国土交通省のほうに、上がれるところ、一部階段でもつくってもらったとったら、何万人でも道路

を封鎖してそこに逃げるとか。ここの近くなんですよ、垣生なんかやったら。そういうところに階段をつくっていただいて、そこから上がって、普段は上がれんようにしておく。そういう方法はどんなやろかと思う、以上です。

【市長】 ありがとうございます、ご提案として受け止めさせていただきます。皆さんすごくご心配なことと思います、それは同じ松山に生まれ育った人間として共有をしたいと思います。皆さんには、2時間10分後ということ、もう一度思い起こしていただきたい。130分ありますから、どうしても皆さんあの風景を思い出してしまうと思うんですけど、東北のあの太平洋の深い海の深さと、この瀬戸内海の海の浅さというのは、津波の高さ、深さに大きく影響します。ですから、東北で起きたことがたちまちここで起こるわけではありませんので冷静な対応をお願いしたいと思います。2時間10分ありますので、その中でできる対応をお願いしますし、同じ松山に生まれ育っている人間ですから、松山の人一人でも犠牲になってほしくないと思っています。そのための策はきちんと講じてまいりますので、きちんと返答させていただきますので、先ほどの提案も受け止めさせていただきます、ありがとうございます。

【男性】 先ほどの津波の件で、さっきの行政の返事も納得いかんのですが、さっき市長の言うた120分あるというても、実際その120分というのは夜中に来た場合に対応ができるかよね。自分の荷物をまとめて、どうのこうの言うて、道路も渋滞するじゃないですか、高台に上られ言うても、高台行くまでに車渋滞して当然高台歩こうとしたら時間かかりますよ、極端に言うたら。よその県を比較しますと、さっき言うた避難タワーは、他の県では市が音頭とってくれとんよね。行政がとるんが私も当たり前やと思って、2、3言いたいと思って言いよんですけど、いずれにしても昼間来た場合は対応できるが、西垣生で1万1千人おったら、それが果たして逃げ切れるかどうか、さっき言うたように、高速、松山道から宇和島へ行く高速道路、伊予インターから入って、あそこをもっと道を広げてもろて高速道路を高台の場所に、またサービスエリアみたいな近くに場所とって避難できるという感じに、要望してとても車が置けんかったら、その高速道路の横の緑地帯を広げて、みんなが十分避難できるというふうにしたらどうかと私なりに思うし、私も一応町内会の代表として、いざあった場合はこうやらんといかんというふうにしょっちゅう会を開きよんですが、皆さんもそう思うんです

が、行政もうちょっとしっかりしてもらわんと、今の高台へ上がれ、120分で高齢者を連れてどう上がるかっていうんよ。余裕を持って上がるのはわかるんですよ、夜中に起きた場合はできんでしょ、阪神大震災、芸予地震、ほんで昭和17年ですか石手川が破壊して3カ所くらい壊れて、それは今大丈夫といって直しとると思うんですが、そのもろもろがあるんで、悠長な考えじゃなしに、もうちょいやってもろたらと思います、以上です。

【市長】 わかりました、これについても受け止めさせていただきます。すみません、答え方の問題ですけど、私と職員を比べるとやっぱり職員は自分の思いをなかなか伝えることができない部分はあるかと思いますので、そのあたりはご勘弁願いたいと思います。

【男性】 先ほどから防災についてたくさん皆さん意見が出とんですけど、これに関連して私のお願いはお金かからんと思います。先ほど消防局の方も言われた避難の発信をして120分とか130分という話聞いとりますけども、その発信が住民に伝わらんかったら意味がないと思うんですよ。うちの自主防災会長さんも、高台を緊急の避難場所として交渉に当たって確保してもらっております。しかしその避難しなさいよという一報が届かなかったら意味がないと思います。5、6年前、垣生小学校で松山市の防災訓練がありました。昨年、西垣生町の避難訓練もありました。そのときも私お願いしたんですよ。というのがそのお知らせが公民館からの放送で皆さんに周知するようになってんですけど、私ちょうど海の近くに住んでおるんで、冬場西風、北西の風が吹くと、ここから放送が出ても風に返されて聞こえないので、何とかしてもらえませんかというお願いをしました。対策もとってもらったようではすけれども、まだ十分ではありません。訓練の場合じゃったら、こういうこと言っとったんでこういう内容だないうんでわかりますけど、実際の有事の際にはそうはいきません。そこで言葉で知らせるんじゃなくて音で、例えばパトカーとか消防車とか救急車の音とかは子どもでも大人でも、あの音が鳴ったら救急車来よるな、どっかで火事が起きとるないうのがわかる思うんですよ。そういうふうに音だけ、例えば放流をするとき45秒間鳴らして5秒間休み45秒、の繰り返しですね。こういう、音だけで避難しなさいよいう信号を発信するようなことを考えてもらったらと思います。

【市長】 はい、わかりました。これについては岡本企画官、はい。

【消防局企画官】 先ほどの情報の発信、通知ですが、垣生地区につきましては25年度に防災行政無線を設置するようしております。場所は5カ所ございまして、奥土居公園、大新田公園、帝人株式会社南地区公園、垣生公民館と垣生中学校に1基増設するようしております。5カ所で行政防災無線の一斉放送ができるようになっております。従来のアナログと比べて音声で伝達距離が1.2倍から1.5倍くらいの伝達ができますので、かなり広範囲に聞こえるようになっております。また1カ所で自主防災組織の会長さんの自宅からもこの一斉放送ができるシステムにしておりますので、消防局からの通報、また地域での詳細な通報が、それぞれの地域からの情報が送れるようになっております。また緊急地震速報などもこの防災行政無線で一斉に通報ができるようになっておりますので、そういったところで情報の通報、そしてこういった事態になりますと消防団、常備消防の消防車も出まして広報もすることとなっております。また音声だけではなくモバイル松山消防でメール、携帯電話にメールで通知もできるようになっておりますので、ご利用していただけたらと思います。

【男性】 今の件ですけども、携帯電話のメールとかいっても年寄りがそういうことはようしないし、防災無線の増設も今何カ所か聞かせてもらったんですけど、今聞かしてもらった中で私ら一番海岸に近い。海のほうに放送をするようにしないと風に流されて聞こえんというので設置場所を、例えば今出漁協の上とかにしてもらうことを提案します。

【市長】 微調整するんですよね、無線については。無線設置して終わりじゃなくて、設置して聞こえが悪い場合は微調整もすることになっております。

【女性】 松山市では食育条例もつくっていただいて、私たちの健康を本当に支えていただいていると思いますが、昔は保健師が常駐で支所にいらっしゃったんですが、今は保健師の姿一向に見えません。せめて1カ月に一度など保健師の駐在があれば、ご高齢の方は、垣生はなかなか交通の便も車で行くにもお金もかかりますし、健康づくりはやっぱし市長さんもおっしゃるように、歩いて回れる垣生ってのはいっぱい歩くところあって健康ではありますけれども、相談をするときに交通のお金を使っていくのはなかなか大変ですし、それと地域の子どもさん、また今は少子化ですので不妊の問題とかいろいろご相談したいことは支所の中で、手短かなところで、ワンストップサービスではございませんが、そういう

ことができれば、なお皆さんの健康意欲も高まりますし、また支所への足も出向き保健師と顔なじみができると、垣生の健康増進にますます役立つと思いますので、そこら辺一月に一度、また2カ月に一度など定例で常駐していただける時間帯を決めていただいてもかまいませんが、可能ならばしていただけると、皆さんの意欲も高まり、ますます元気な垣生になると思うのでよろしく願いいたしたいと思います。

【市長】 これは大濱部長ですね、はい。

【社会福祉担当部長】 保健福祉部でございます。現在の保健所を設置した段階で各地区に常駐しておりました保健師も、南部あるいは保健所、北条の拠点に配置しております。そういった中で各地区に出向いて行って、例えばこんにち赤ちゃん事業とか、幼児の事業とか各地区を回ってはおりますが、各支所に常駐というのは今現在とっておきません。こういった内容も含めて、今日のお話もお聞かせいただいた中で、今後の事業の展開の持ち方についても検討してまいりますので、お時間をいただいたらと思っております。よろしく願いをいたします。

【男性】 すみません、このタウンミーティングですけれども、実際質疑応答した分を松山市のホームページのわかりやすい場所に、こういうふうなことがありました、解決はこのようにしますというふうに、ちょっと教えてもらえたらと思います。

【市長】 はい、これはわかりやすくということで松山市のホームページ、最初のトップページ見ていただけたら、タウンミーティング出ております。全地区の議事録、どういうふうなお答えを返したかっていうのも全部出ておりますので、トップページ確認していただけたらと思います。

【男性】 わかりました、確認してみます。

【女性】 高齢者の福祉について、だんだん年取ってくると病院を利用するのが多くなって、入院したときに3カ月しか置いてくれないところがたくさんあるんですよね。それで3カ月したら治りかけたものも、退院して行くところがなかったら結局また元に戻るんで、それはどういうわけで3カ月しか置いてもらえないんですか。

【市長】 わかりました、これは大濱部長、国の制度ですね。

【社会福祉担当部長】 保健福祉部でございます。現在3カ月で退院をいただく

ということではないんですが、基本的に病院では、治療を必要とする患者さんの一定の回復があれば、地元あるいは地域に一番近い病院につないでいくことが最優先にされております。これは例えば県病院とか日赤病院とかは、地域の拠点病院として入院患者あるいは手術の必要な方を中心に受け入れて、その治療を行った後に地域の病院にお帰りいただくということが国の制度で決められておりますので、そういった手法を取られることが多いと思っております。ただ3カ月たっても全然治ってないのに病院出てくださいということはないと思いますので、ご理解いただければと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

【男性】 ようやく番が回ってきたんですけど、私は鍵谷祭のお世話をしていきます。明治時代から皆さんに鍵谷祭はいろいろとお世話になって感謝をしております。松山市からも補助金をもらっておりますが、これを打ち切らんようにひとつお願い申し上げます。それともう一つ、私は織物組合のお世話をしておるんですけど、現在は伊予絣も落ちぶれて2次製品に力を入れております。先日うちの役員が市長さんにお会いしまして、絣の柄の入ったクールビズ用のワイシャツを進呈しております。今着ているのがそうです。皆さんひとつ懲りずに着てください。これから新製品を微力ながらつくっておりますが、なにとぞ市長さん啓発や産業振興のご支援をよろしくお願いいたします。それと私も前から伊予絣を有形文化財にする運動しておるんですけど、なかなか前向いて行きません。これは県とか市のお力添えがないといけませんが、ひとつこの点もよろしくお願いいたします。

【市長】 はい、わかりました。よくイベントでは言ってます、これからも言っていきます。やっぱり日本三大絣の備後絣、久留米絣、伊予絣ですから、結構反応がいいので、これからも伊予絣のPRに努めてまいりたいと思います。文化財のことについては、前田課長、お願いします。

【生涯学習政策課長】 伊予絣の関係の保管資料の調査につきまして、昨年、伊予絣調査事業を実施して、伊予かすり会館所蔵の資料について国の登録文化財への申請の可能性を探る調査等行いました。今年3月に文化庁の調査官を伊予かすり会館へお招きして、今後の作業や登録に関連するご助言をいただいたところですけれども、申請にむけた絣の技術的な変遷とか、地域的な特色についてとりまとめを行い、登録申請に耐えうる資料の体系整理が求められておる状況でして、

今後、かすり会館の意向も確認しながら、対応を検討してまいりたいということが現状でございます。よろしくお願いします。

【市長】 今日ちょっと私から、財政の話を今まで話せてないのでちょっと話をさせてください。このようにタウンミーティングを重ねさせていただいております。各地区で「市長こうしてほしいんですけど」というご要望をいただきます。私もご要望をいただいたら「これして差上げたいな、やりたいな」というのは思います。松山の財政のことを言わせていただくと、皆さんもよく聞かれると思いますけども、国は1千兆円の借金を抱えていると言われております。地方交付税交付金、国庫支出金という形で地方に金が配分をされておりました。今、国全体で1千兆円の借金ですから、1億人で割ると一人頭どれだけの借金になるのかおわかりいただけるとは思いますけど、地方に配分される額がこれから増えるというのはなかなか考えにくい。ですから以前の高度経済成長の時代なら、こういうご意見いただいたら「よしわかりました、やりましょう」、税収もどんどん伸びていった時代ですから「わかりました、これもやりましょう」「これも建てましょう」と言うことができたと思います。でも今はなかなかそんな時代ではない、申し訳ないんですけど。松山市の1年間に出ていくお金を歳出といいますけども、これの一番大きなウエイトを占めているのが40パーセントを占める民生費です。いわゆる福祉にかかるお金が松山市の財政の中で一番大きくて40パーセント。これが1年間に松山市だけで50億円増えたんです。そして皆さんがよく聞かれる生活保護費は、松山市だけで1年間で20億円増えたんです。今どこの地方自治体も大体こういう状況です。松山市は中四国の中ではいいという財政状況ですけど、松山市でも民生費は50億増えた、生活保護費は20億増えたという状況です。最初に申し上げたように、国からの配分がこれから増えるとは考えにくい、大元が借金をあれだけ抱えてますから。ですから民生費が50億増えたならば、どこかで50億絞らないといけない。生活保護費が20億増えたならば、どこかで20億絞らないといけない。じゃないと松山市の財政は下り坂になっていく。いわゆる箱物行政と言われたときがありましたけれども、やっぱり何かを建てたら維持管理費が絶対にいります。やはり今、その箱物をどんどんつくっていく時代ではない。だからといって何もしないというわけではない。松山外環状線、今整備しておりますけども、あれは松山にとって必要な道路だからです。本当に今

日私は来てよかったと思います、垣生に。それは皆さんが本当に子どもたちの命を含めて真剣に考えてくださっている、命のことを真剣に考えてくださっているから本当に切実な声だったと思います。真剣なお声をいただくことができましたので、私は本当に来ることができてよかったと思っています。この声を受け止めて、本当に実際に動いてくれている方のご意見だからまたありがたいんです。本当に動いている方からの切実なご意見ですので、しっかりと受け止めたいと思います。松山外環状線はいざというときの緊急避難路にもなるものです、大きく5つくらいのメリットがあるので、松山外環状線、お金がかかるものですがけれども今整備をしております。このように何もしないというわけではなくて、今皆さんからお声を受けて、じゃあ松山市は今何をすべきなのか、1番には何をすべきなのか、2番には何をすべきか、そういう優先順位をつけていくためには、やはり皆さんの声をいただくことが大事だと思っておりますので、今日は本当に来ることができてよかったなと思っております。本当はもうちょっと私もしゃべりたかったんやけど、ちょっとしゃべれなかったっていう方もいらっしやったのではないかなと思いますが、常に門戸は開いております。市長へのメールの制度もありまして、これパソコン使える方は松山市のホームページを見ていただいたら、市長へのわがまちメールという制度もありますので、これ全部私目を通しておりますし、私の責任のもとに担当課に答えを振りまして、私がちゃんと目を通して地元にお返しをする、もともとと言ってくれた方にお答えを返す制度もしておりますし、はがきでも結構ですので、またこれからも皆さんのお声をいただけたらと思っております。今日は本当に必死の思いといいますか、いただけたので本当にありがたく思っております。どうしてもって方がいらっしやればお一人受けましかも、もしいらっしやったら、わかりました。あるけど後でっていう方がいらっしやいました。また道路のこととか、危ないところあるんよっていうのがありましたら、結構です、また言っていただいたら。もし白石課長埋まったら、ほかの職員に言っていただきましたらつながりますので大丈夫です。

本当に今日はありがとうございました。また、避難所のことについては1カ月を待たずにできるだけ早く答えを返させていただきますので、よろしく願いいたします。今日は本当にありがとうございました。

— 了 —